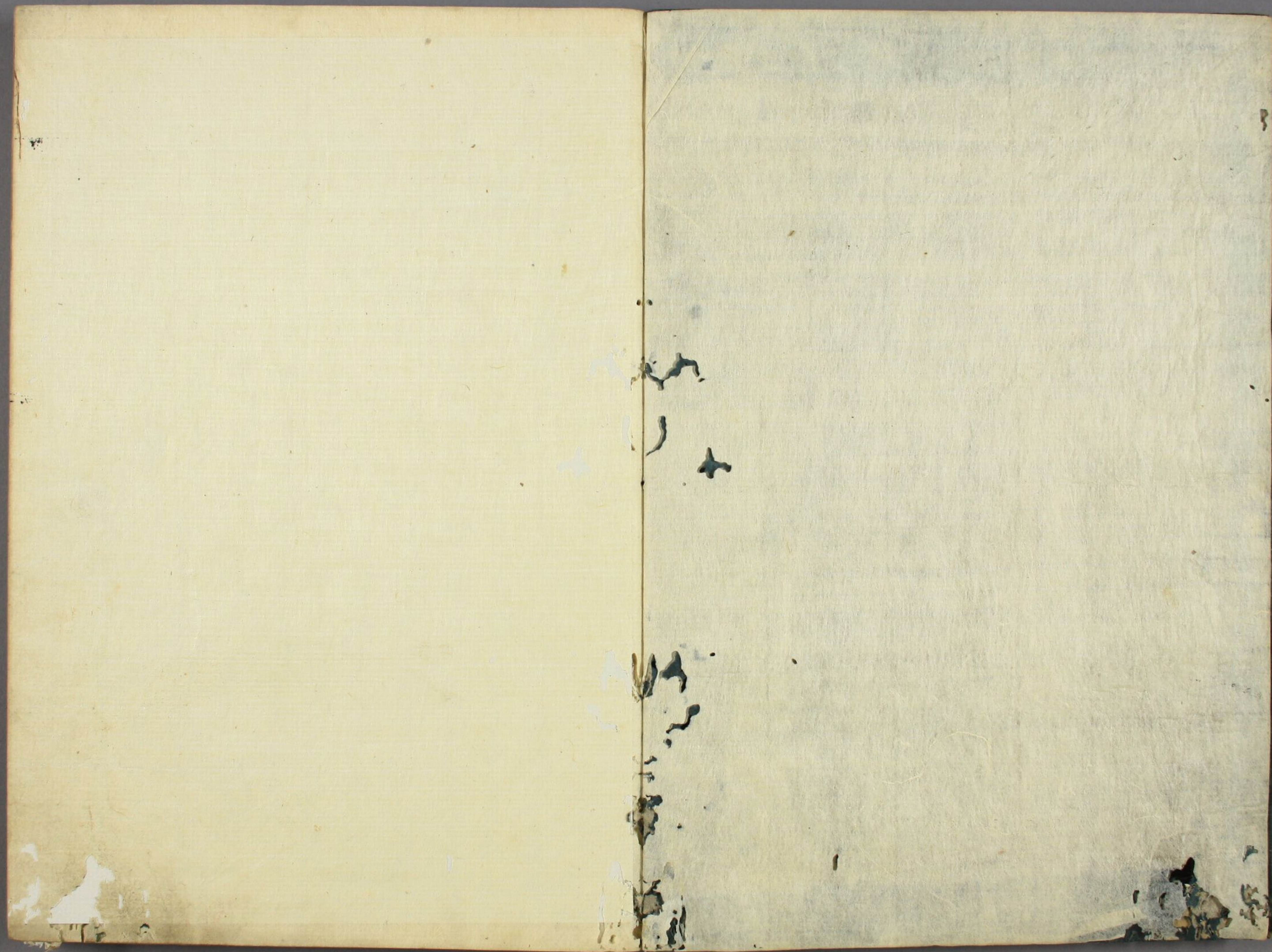


六家集

長秋 上中

後成卿





友とて久しきものどもおぼえしるにふくせりてむづから
まの嫌がものをたれどもおぼえしるにふくせりてむづから
しるるものどもおぼえしるにふくせりてむづから
都の遠きものどもおぼえしるにふくせりてむづから
大目もあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
多られたるものどもおぼえしるにふくせりてむづから
又目もあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
名前の面もあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
ふまゝのものはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
らゝのものはれどもおぼえしるにふくせりてむづから

秋の季の月

秋のふくせりてむづから
七々のあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
かゝるものはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
何れもあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
ふまゝのものはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
秋のふくせりてむづから
夕のあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
夕のあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
夕のあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから
夕のあつたはれどもおぼえしるにふくせりてむづから

凡そなむのこころをよこすてはたげまはるる
 かしこみのあはれをいふにたほひしあはれ
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 ありはるる神のこころをいふにたほひしあはれ
 智しきこころをよこすてはたげまはるる
 毛細のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 けふのこころをよこすてはたげまはるる
 とくがけのこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる

凡そなむのこころをよこすてはたげまはるる
 かしこみのあはれをいふにたほひしあはれ
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 ありはるる神のこころをいふにたほひしあはれ
 智しきこころをよこすてはたげまはるる
 毛細のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 けふのこころをよこすてはたげまはるる
 とくがけのこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる

神祇二首

釋教二首

花巖

方葺

凡そなむのこころをよこすてはたげまはるる
 かしこみのあはれをいふにたほひしあはれ
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 ありはるる神のこころをいふにたほひしあはれ
 智しきこころをよこすてはたげまはるる
 毛細のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 けふのこころをよこすてはたげまはるる
 とくがけのこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる
 人のこころをよこすてはたげまはるる
 いふてはたげまはるる

般若歌

ちりみかじりしつらさるる月をわらへては海もさる

法苑

昔も白ひくろは法苑のついでに花をさるりあり

大徳

やむむか月花のついでに花をさるりあり

三十一首

世の中はいつてはあはれむしはなほ海もさる

つらさるる月をわらへては海もさる

離別一首

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

四時歌一首

うららかにあつたははそあつたははそあつたははそ

昔もあつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

つらさるる月をわらへては海もさる

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

三十一首

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

物名二首

扇柳桜

あつたははそあつたははそあつたははそあつたははそ

月鏡忠子歌

冬ついでに...

短弁一首

冬ついでに... (Main text on the right page, written in vertical columns from right to left)

冬ついでに... (Main text on the left page, written in vertical columns from right to left)

きんぎょ とうんげ かなたれ ちかやぶら
みれり ちかやぶら ちかやぶら

反并一

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら
ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

きんぎょ

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

ちかやぶら

ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら ちかやぶら

早蕨

~~~~~

蕨

~~~~~

帰雁

~~~~~

英子鳥

~~~~~

苗代

~~~~~

茗茶

~~~~~

杜若

~~~~~

友

~~~~~

款冬

~~~~~

三月曲

~~~~~

夏新

更衣

おはようございます

知れ

おはようございます

葵

おはようございます

郭

おはようございます

葛蒲

おはようございます

早苗

おはようございます

照射

おはようございます

入月夜

おはようございます

お梅

おはようございます

雲

おはようございます

牧を火

おはようございます

蓮

偶々志海の方を拝見ありやと云つては世に驚かす

米室

ふりて傳ふ米室は、あまの世のあまのさるる

泉

只の泉の流る水は流るる海のむくもるる

六月後

昔のあまのついでに後す川を流る神あり

秋新

之秋

秋のあまのついでに神のあまのついでに

七夕

何れも流るるあまのついでに秋のあまのついでに

萩

あまのついでに萩のあまのついでに

女房

あまのついでに女房のあまのついでに

藤

あまのついでに藤のあまのついでに

菊

あまのついでに菊のあまのついでに

蘭

あまのついでに蘭のあまのついでに

萩

あまのついでに萩のあまのついでに

初鷹

向ふも又うらみよもくしんさるるもよるくはゆき

麻

廿甲は乃くまのけしおのひるははまも麻を初る

藤

志波の中なるれんはまぶらさるるにこそはゆき

新

夕まのれいさくさつよりみくもよるに初はゆき

権

笑へくまはゆきよるあはれあはれはゆき山権はゆき

約

春はゆきよるあはれあはれはゆきよるあはれ

月

ゆきよるあはれあはれはゆきよるあはれ

持

長持よるあはれあはれはゆきよるあはれ

法

こりよるあはれあはれはゆきよるあはれ

菊

うさゆきよるあはれあはれはゆきよるあはれ

取

あ〜ゆきよるあはれあはれはゆきよるあはれ

九月並

うさゆきよるあはれあはれはゆきよるあはれ

冬新

初色

冬は神事ありて、あつたて油さひくたさかき

時面

あつたて油さひくたさかき神事物、たあつた

箱

皆人ばあつたて油さひくたさかき

舞

あつたて油さひくたさかき

言

あつたて油さひくたさかき

草

あつたて油さひくたさかき

あつた

あつたて油さひくたさかき

氷

あつたて油さひくたさかき

水多

あつたて油さひくたさかき

細代

あつたて油さひくたさかき

神事

あつたて油さひくたさかき

あつた

片思

うら身ははるかにあふくさるるもあはれなる

恨

うら身ははるかにあふくさるるもあはれなる

雑音

あつとてはれ花とてさかすかすのさかすか

松

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

行

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

毒

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

山

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

河

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

野

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

用

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

橋

うらうら昔はとまのたよりぬきぬきとて

長秋詠藻中

まき奇

家十首のまき奇のまき奇のまき奇

とけらるまき奇のまき奇のまき奇のまき奇
正月朔のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇
のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇

まき奇のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇
右ちねまき奇のまき奇のまき奇のまき奇
まき奇のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇

まき奇のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇
のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇のまき奇

義徳門
む女院白河此よりうらぬまへに
中念佛より七日はくく毎日云々
とてあふひ一中は霧中あふひ
こころの紙

何れも地衣よりみゆか藤之とひれ
刑部心頼情約良宗合子にてあふ
つよより云々みえてさうり
中
帰雁

さく今あふのあつたつた
崇徳院近傍ありれ幸あり一日を
とらひよはれ
さうり

山家より山侍も
よみ

山嶺
大松山門
とて今

名高
此より
去内裏の
よみ

九つと白ひとくつ梅を煮る世もよわらん
おのゝま内裏のれをよき禁座の柳重と
いふこころ哉

まらぬとむれ初球をひきり柳此をよき此を
家の十首のまれ申よむ

みよれむれ初球をひきり此を梅よまらぬ
三月朔日ころ日吉よ給へ梅り
梅らのむれ初球をひきり此を梅りて合書
前もろころ

うらゝる初球をひきり梅をひきり此を梅り
まらぬのむれ初球をひきり此を梅り
此をよき初球をひきり此を梅り

とよわえはのむれ初球をひきり此を梅り
大將実定の十首れ歌此をひきり此を梅り
と云

尋らる人初と云ふ初球をひきり此を梅り
故女院彼岸のれ念佛れ今れ申国海
後をよき初球をひきり此を梅り

おれ山のむれ初球をひきり此を梅り
おれ山のむれ初球をひきり此を梅り
八徳よみ初球をひきり此を梅り

西行西行初球をひきり此を梅り
對を思西初球をひきり此を梅り
らる初球をひきり此を梅り

田家考 彼岸此の念佛念れ申

ゆきおちればと縁と伝ふとて
三月廿日は平静悪うり
むいみふとてあてはるる
わらわらとておぼえり

夏新

十首のうち申よ交

あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて
あつたうらむとて

彼岸此の念をて照白
暮見卯とてとて

早人此の念をて照白
も極とてとて

伏見の念をて照白
伏見の念をて照白
伏見の念をて照白
伏見の念をて照白

中
中
中
中
中
中
中
中
中
中

口ふいふにさうして郭を花月のはなをこころ
家の十首のうらふ郭を

ふくふくふく郭をよむといひてはむの
くく常盤より百首のあのみゆき
曉阿志

このひつまをゆりえよ郭をなほあはれし
はほちなりと院のほ休花乃叶れ今
あふ中郭をよむといひては

阿志といひてはほれとては
やれは休むといひては

ふくふくふく

左大将の命よりとり申はむ日あ

又月あ若れハきつと梅もそと元城くははし
崇徳院のほをれとて六月朔日交遊阿志
とらふといひてはほれといひては

あみんゆりやの郭よりとらふ六月乃り
頼輔郭長のあ合れや納涼

夏は日短いといふとやあはれはとては
崇徳院より果適納涼といふといひて
水の面より日短といふとては

秋奇

秋秋のこころをよみける

あはれといひては秋は秋のあはれといひては

保延内内裏の九合より七夕のつとめ
七夕のつとめはあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
頼輔朝臣の言合のうら七夕

七夕のつとめはあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
遠く萩よりつとめ

これより萩よりあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
二条院のつとめはあつとめあつとめよひをたぬかへんよ

應別裂五首中風動野花

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
麻声何方

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
大將の十首の歌中庭伯用麻よ

こころ

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
八月のふれ崇徳院のつとめ

八月のふれ崇徳院のつとめ

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
はつとめの十首の中の月二首

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
二条院のつとめはあつとめあつとめよひをたぬかへんよ

あつとめあつとめ

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ

あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ
あつとめあつとめあつとめあつとめよひをたぬかへんよ

南世に於ては... 何れも... 何れも...

二首の中一は九月

公の心は... 月... 何れも...

家... 月... 何れも...

何れも... 月... 何れも...

回家月

何れも... 月... 何れも...

家十首のなか中一月

世... 月... 何れも...

光の... 月... 何れも...

あ... 月... 何れも...

九月十三夜夜崇徳院... 月照菊...

... 月... 何れも...

... 月... 何れも...

... 月... 何れも...

... 月... 何れも...

... 月... 何れも...

出牆... 月... 何れも...

山... 月... 何れも...

西山... 月... 何れも...

... 月... 何れも...

本... 月... 何れも...

院乃九月の内... 月... 何れも...

廉声何方... 月... 何れも...

閑中言草の題の中

あり初て友まの言すらうけの者しむるは
保延乃由村二条内裏のあり一箇一と
言を樹をよと云くは海也移り一時
わさかみさ代た言ふおとふ代此言此切
法務寺此十首 今此言

くありまよひすみ海言つみてあはれは
まの午の十日あゆり言ひさうあり
くは且んたお新大細とて言へ一時さ
と然いり言ひさうあつてあまはたあ
く

とそまく心はあつらわりの言ふこゝあてあひか
な

同日大玄指たま経盛つまは此文の
いひとくさ近程よ信々りわとあり
言ふれしうさ形をいしあひあそとくま
く

ありつうさゆり言をよめつらあはつた
家の十首今の中言

つれさ適がゆりあひあひあひあひあひ
多ね院少智よあり一箇一、ころ氷留木
声と云くは紙有り北人くよみ
冬をく氷と氷の名とてあひあひあひあひ
果実言言とありあひあひあひあひ

くれとく起り紙とあひあひあひあひあひ
あ

仁和元年大嘗會悠紀方此歌のみく
くしりくきよの宣旨よりくき記く
つひハ儒者よとゆくまらさといくし
尸と於よそそなる人あすハ元色を
く行変弁後神物と云く云く
とくりくしりくしりくしり

悠紀方 近江國

風俗奇十首

稻舂奇

坂田郡

ゆみらるる山此いねとりあてなる此神とく
神樂奇 長岑山
よりの式とわらうるそね山此とくまらさのり

辰日祭入音声

鏡山

うらうらうみろ山此とくまらさのり此神とく

同日祭

余吾海

まら海下んたつとくまらさのり此神とく

同日樂急

真木村

まの代ハらえ此とくまらさのり此神とく

同日退出音声

音高山

吹風夜ものゝそそ方代とくまらさのり此山

己日祭入音声

石根山

ゆきまきつとくまらさのり此山此のワの松

同日祭

安河

安河此のりわらうるまらさのり此神とく

玉蔭井

水邊に陰有納涼之人

先よりむむけの井此涼よよの年此秋とまりの石

丁卯七八月

高宮郷

七夕有川糸の家

七夕と釣ひくふあうの秋意をわづらう家此を

志賀浦

月浮水と人見

照月と志賀浦へてあがる玉よるへとあつたけく波

玉野原

秋花用事

あまひびと玉のけり秋さるわゆるおはよみか秋小

戊卯九月

吉水郷

多人家菊も涼水

いづらよ秋すもよ菊はふ白くとうとら木此里

大蔵山

山脚民家多稜稻所

うすしす秋のりかとうそと大々々此のまあ

松賀江岸

松樹茂盛邊山有紅葉

ふ葉も紙うひあけあひのれとみりを海へ松の

己卯五五月

千坂浦

千馬郡飛行客見

いづらよとくさあふむ秋のれらとあつたけくよあつたけ

勢多郷

白雪積敷人馬こ

あつたらや日次のうさねとて君もあつたけ

吉才村

あつたけのむむけの民よあつたけとまうとつたけ

仁安元年十一月三日詠進之

恋寄

保延の町終見恋と云ふ成すは恋の心

若くは若くはこれの水はけりりみく神めくとも
 同院の會は思不言恋と云ふ成す

ワの心もくすいれは言ひくともあはれなる心は
 又曉恋と云ふ成すは恋の心

あつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 未對面恋と云ふ成すは恋の心

人とのあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 月五首あつきの心はこれと云ふ成すは恋の心

一〜成

〜の心のあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心

歌捕の家はあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 ソの心のあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 及新恋

〜の心のあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 秋の心のあつきの心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心

心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心

心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心
 心はこれと云ふ成すは恋の心

定家之母と新古今のあり

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on the left page of an open book. It consists of several lines of text, with some lines starting with a small symbol resembling a stylized 'f' or 'p'. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on the right page of an open book. It consists of several lines of text, with some lines starting with a small symbol resembling a stylized 'f' or 'p'. The script is dense and difficult to decipher without a key.

志のつとむるに
あはれはまじりて
り日みり
や
回

無
お女院の徳岸
何
と

あ
悲隣女

あ

流

あ

今

あ

閑

あ

今

あ

あ

あ

あ

あはれなるSunlightの心を花にうつし中なるは

宋の十首の今にあらは

あはれなる花にうつし中なるは
花捕朝臣のあはれなるは

あはれなる花にうつし中なるは
あはれなる花にうつし中なるは

あはれなる花にうつし中なるは

あはれなる花にうつし中なるは

